

(3) 東山小学校

学 校 長 岸本 教恵
校内研究代表者 白石 浩美

1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」

～友だちと関わり、コミュニケーションの楽しさを体験する外国語活動・外国語科～

2. 主題設定の理由

本校の児童は、全体的に明るく開放的で、与えられた課題には一生懸命取り組むことができる。しかし、友だち同士関わり合いながら高め合っていくことに弱さが見られ、自分の思いをうまく表現できなかったり、他者とのコミュニケーションをうまく図ることができなかつたりする児童もいる。そのため、お互いに理解し合えなかつたり、自己主張の強さから相手の主張を受け入れることができなかつたりする場面も見られる。

このような実態を踏まえ、平成30年度より高知県教育委員会による「英語指導教員配置による英語教育推進事業」を受け、研究テーマを「主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業づくり～友だちと関わり、コミュニケーションの楽しさを体験する外国語活動～」と設定し、単元ゴールの明確化（コミュニケーション活動の工夫）、主体的・協働的に取り組める活動の設定、授業スタンダード（東山スタイル・新東山スタイル「Do - Learn - Do Again」）の定着を図るための研究に取り組んできた。

そこで、今年度も、昨年度の取り組みの更なる充実と改善を目指すために、5、6年生が外国語科になったことを踏まえ、副題に「外国語科」を加えて同様の研究主題に取り組む。児童の具体像としては、『授業中に積極的に外国語を使って他者（友達、教師、ALT等）とやり取りをすることにより、自分の考え等を形成、整理、再構築し、目的、状況、場面に応じて自分の思いや意見を外国語で伝え合っている姿、またそうして得た知識や考えを次の授業で活かしたい、学校教育外でも使いたいという姿』と位置付け、児童のコミュニケーション力と教師の授業力向上を目指していく。

また、児童のコミュニケーション力を高めるためには、外国語科・外国語活動で行っている研究を全教育活動へと広げ、各学年の発達段階に応じた方法で、人と関わる活動をたくさん仕組み、人と関わるのが当たり前という雰囲気づくりをすることも必要である。

さらに、今年度から新学習指導要領が全面実施となり、5、6年生に外国語科が新設され、資質・能力ベースの授業に転換していくことが求められる。それに伴い、より一層のコミュニケーション力の向上にも取り組む必要がある。そのため、その資質・能力が身に付いているか、コミュニケーション力が向上しているかを適切に見取るための授業評価についての研究も併せて行っていく。

以上のことから、今年度の研究主題を上記のように設定した。

3. 研究の進め方と方法

(1) 運営

①研究推進委員会（月3回月曜日 管理職・研究主任）

②研究部会（学力部会・外国語部会・児童理解部会）

各部において企画された取り組みは、研究推進委員会等の承認を得る。

③学年部会（毎週金曜日）

④校内支援委員会（月1回火曜日 特別支援教育）

（管理職・特別支援コーディネーター・養護教諭・該当児童学級担任）

⑤校内支援会（生徒指導）

（管理職・生徒指導担当・不登校担当・人権教育主任・養護教諭・該当児童学級担任・SC）

(2) 校内研の持ち方

・研究日は毎水曜日（15：20～16：45）とする。（第2週…定例職員会）

・研究日は全教職員による全体研修と各研究部による研究部会等を行う。

・研究推進委員会で企画立案し、全体に提案し、共通理解を図り実践していく。

(3) 授業研究

・全校研究授業は、外国語活動とする。

・各学年年間1本の全校研究授業を実施する。

- ※授業づくり講座を行う学年は、これをもって全校研究授業とする。
- ・全校研究授業の前に学年部またはブロックで事前に教材研究を行い、全体へ提案する。
- ・全校研究授業の前に校内研修での指導案検討（模擬授業）を位置づける。
- ・授業参観の視点は事前研究（模擬授業）で決め、その視点に沿って参観・研究協議を行う。
- ・全校研究授業の研究協議の司会は外国語部会が行い、記録は各ブロック（低・中・高）で行う。
- ・研究協議で話し合ったことは、各ブロックでまとめる。
- ・良かった点と課題点を明確にし、次へと繋げていく。

4. 今年度の取組

- 4. 3 ・児童理解 今年度の研究（研究主題・研究の進め方、東山授業スタンダード・新東山授業スタンダード（外国語活動・外国語科）等）について
- 4. 6 ・研究部会（ねらい・年間計画検討）
- 4. 15 ・東山授業スタンダード（外国語活動・外国語科以外）について
- 5. 20 ・指導案検討 5年1組 授業者 奥宮教諭【教材名】「バースデーカードをおくろう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
 - ・研究主題の達成に向けての取組の確認
- 5. 27 ・研究授業 5年1組 授業者 奥宮教諭【教材名】「バースデーカードをおくろう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
- 6. 4 ・指導案検討（模擬授業）3年2組 授業者 林教諭【単元名】「ミッケクイズをしよう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
 - ・外国語アンケート（第1回）分析結果、改善策について
- 6. 17 ・公開授業（授業改善プラン）を行うにあたって
「中間評価」「真正性」「個人化」「創造性」の確認、外国語の授業の振り返り
- 6. 23 ・研究授業 3年2組 授業者 林教諭【単元名】「ミッケクイズをしよう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
- 7. 15 ・すべての子どもが「分かる」「できる」 授業づくり
- 7. 22 ・支援・配慮が必要な児童について
- 7. 29 ・外国語の授業についての振り返り
研究主題を達成するための取組
コミュニケーションの楽しさを体験させるための工夫点
英語の使用量（児童、教師）
他教科への広げ方
 - ・研究部会（1学期の集約）
- 8. 4 ・標準学力調査、全国学力状況調査分析結果報告、改善策について
・単元テスト分析結果報告、改善策について
・2学期の取組について（研究主任・研究部会より）
- 8. 26 ・授業改善プラン中間検証
- 9. 2 ・「書く」指導について
- 10. 14 ・各種学力調査を受けた全学年共通の取組について（研究主任より）
・授業づくり講座（教材研究会）について
指導案、協議の視点、日程等確認
- 10. 23 ・授業づくり講座（教材研究会）4年1組 南雲教諭「Let's make miso soup!」
講師 西部教育事務所 間指導主事
- 10. 28 ・指導案検討 2年1組 授業者 池谷教諭【単元名】「形の言い方を知ろう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
 - ・各種学力調査を受けた全学年共通の取組
- 11. 11 ・研究授業 2年1組 授業者 池谷教諭【単元名】「形の言い方を知ろう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
 - ・外国語アンケートについて
- 11. 26 ・指導案検討 1年2組 授業者 今井教諭【単元名】「オリジナル動物園を作ろう」

- 講師 西部教育事務所 松本指導主事
- 12.9 ・研究授業 1年2組 授業者 今井教諭【単元名】「オリジナル動物園を作ろう」
講師 西部教育事務所 間指導主事
・授業づくり講座（授業研究会）について
指導案、協議の視点の確認
・単元テストについて・考察結果、手立て等の確認
- 12.15 ・授業づくり講座（授業研究会）4年1組 南雲教諭「Let's make miso soup!」
講師 文部科学省初等中等教育局 直山木綿子視学官
- 12.23 ・研究部会（2学期の集約）
- 1.8 ・3学期の取組について（研究主任・研究部会より）
- 1.20 ・指導案検討
6年2組 授業者 武政教諭【単元名】「小学校生活の思い出を発表しよう」
・県学力定着状況調査校内分析結果、改善策
- 1.27 ・研究授業
6年2組 授業者 武政教諭【単元名】「小学校生活の思い出を発表しよう」
・オール四万十実践発表資料提案
- 2.2 ・研究部会1年間の成果と課題（研究集録用）

5. 成果と課題

外国語活動・外国語科における取組

成果

- 低学年の授業でも「Do-Learn-Do Again」の授業展開を仕組むことで、次学年での授業の流れにつなげることができた。
- 各単元のゴールを明確にし、単元計画を児童と共につくり可視化し、実践することができた。
- 他教科（国語、体育、図工等）において、可能な単元では、「Do-Learn-Do Again」の授業づくりやゴール設定するなどの活動ができた。
- 単元と単元をつなぐ年間計画を立てたことで、既習事項を活用した授業づくりをすることができた。
- アンケート結果で改善傾向が見られる項目に着目し、改善方法を考えた授業づくりを行うことができた。結果、全項目で肯定的評価が向上した。
- 「英語で友だちや先生と会話することが楽しい」の項目が低かったので、児童にどうしたら楽しくなるのか聞き取り（アンケートも）、授業づくりを行った。

課題

- 他教科への広げ方が明確にもてななかったため、できる教科に限られてしまった。
- 評価方法を考えたパフォーマンステストはできたが、ループリックの作成までには至らなかった。
- 授業の要素を押さえ、必然性、真正性を広い意味で捉え、授業実践していく必要がある。
- 他教科の指導や支援、仲間づくりの活動を工夫し、外国語活動（外国語科）における苦手意識を少なくしていく。
- 小・中の連携活動ができるような方法を模索していく。

その他の取組

成果

- 学年部会で目的・場面・状況を明確にした授業づくりを目指して教材研究ができた。
- ブロックで協力しあいながら、全員に達成感をもって帰らせることができるようにするための加力指導ができた。
- ゴールイメージを明確にし、見通しをもって授業ができた。
- 学年でユニバーサルデザインの視点や、東山小学校のスタンダードを意識した教材研究を行い、授業に活かすことができた

課題

- 必ず、全体で共通認識したことは実践する等、「チーム東山」として児童の学力向上を目指す。
- 効果的な加力補習の方法を再検討する必要がある。